

10 学校の環境教育支援

エコカード会員×1,039人の支援で1校の小中学校が1年間、環境教育を受けました。



自然体験プログラムなどのノウハウを持つ日本各地のNPOと、ノウハウや機会を探している学校をつなぎ、環境教育プログラムを提供しています。また、環境教育サイト「EE Kids」を活用した環境教育の基盤づくりも行っています。

2009年度は日本国内9校の環境プログラムを支援。2010年度は小中学校9校での環境プログラムを支援予定です。

環境教育サイト「EE Kids」
<http://eco.goo.ne.jp/education/eekids/>



11 さとやま学校

エコカード会員×18人の支援で、学生1名が環境教育を受けました。



日本人にとって身近な自然「里山」の保全・再生と、次世代を担う人材の育成を目的に、長野県飯綱町の耕作放棄地を活用し、農業教育プログラム「さとやま学校」を提供しています。飯綱町の農家が苗を提供、学校にある田んぼに子どもたちが自らの手でお米をつくり、農家が出張授業を行うことで、食糧や環境への意識の向上をめざします。また、雑穀栽培や農村都市交流ツアーなどの活動も行っています。

2009年度は、小学校3校で326人が参加しました。2010年度は、これまでの活動を改善しながら継続し、より多くの学校に参加していただけるように活動していく予定です。



9 野口健 環境学校

エコカード会員×173人の支援で「環境メッセンジャー」1人が誕生しました。



自分から環境に対して働きかけ、多くの人にメッセージを発信できる「環境メッセンジャー」の育成を目的に、アルピニストの野口健さんを校長とした「環境学校」を開催しています。小学生から大学生までを対象に募集し、清掃活動や間伐体験、里山保全活動などさまざまな取り組みを行っています。

2009年度は白神山と富士山で各1回環境学校を開催し、延べ38人が参加しました。2010年度は中学生から大学生を対象に、佐渡島と白神山で環境学校を開催する予定です。



次世代の育成

12 エコキャビンスクール

エコカード会員×296人の支援でエコキャビンにLED照明設備を設置できました。



エコロジカル暮らしを学ぶ「エコキャビンスクール」では、小中学生を対象に太陽光発電や風力発電、バイオマスなどの自然エネルギーを使って生活が体験できるプログラムを提供しています。

2009年度は春夏秋冬の4回、子どもたち延べ49人を集めてスクールを開催しました。当基金からの支援は2009年度で終了ですが、リピーターも増えているので、これまでの成果を活かしてスクールは継続されます。

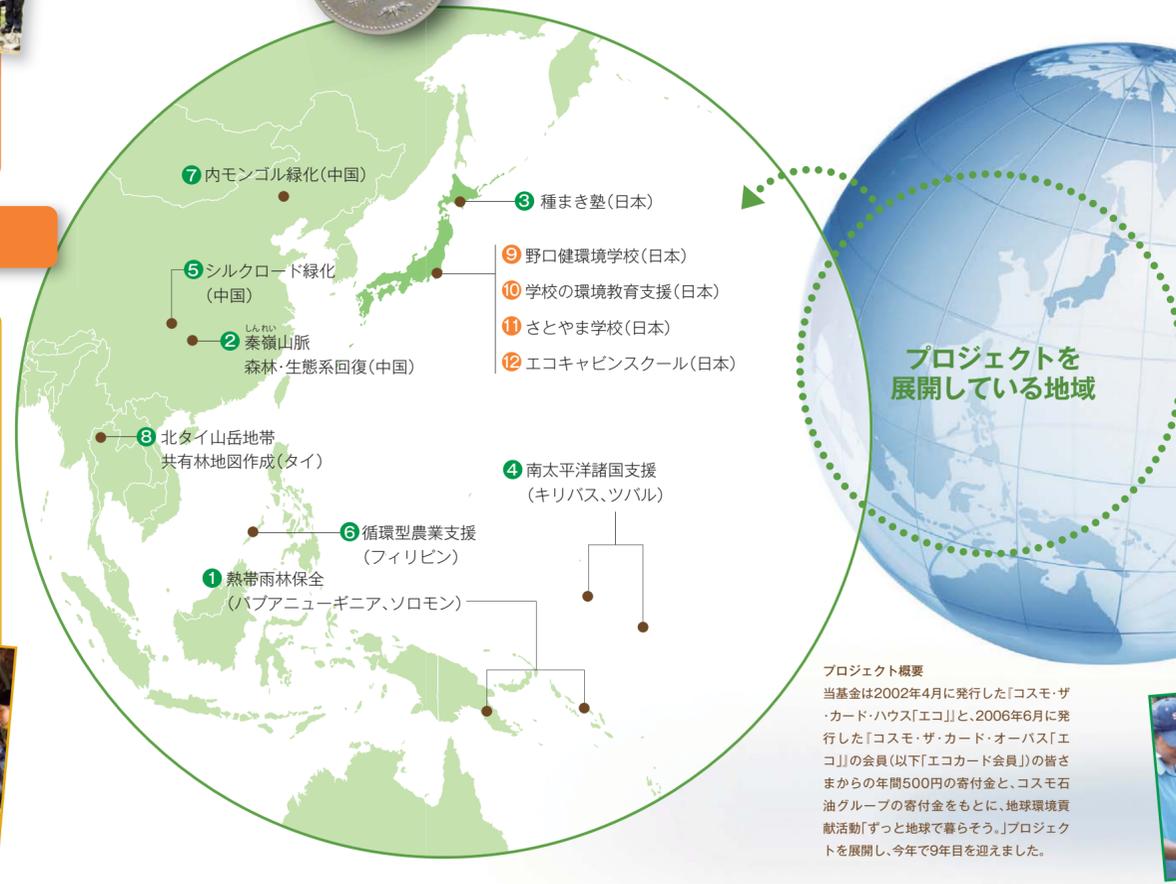


コスモ石油 エコカード基金 プロジェクト紹介

皆さまからの寄付金が、2009年度は12プロジェクトの支援に使われました。各活動のプロジェクトパートナーとともに、日本や世界各地で行った活動をご報告いたします。

※より詳しい情報が掲載されております。
「コスモ石油エコカード基金」のホームページを、
<http://www.cosmo-oil.co.jp/>
ホーム > 環境活動 > コスモ石油エコカード基金

地球と未来のためのプロジェクト



プロジェクトを展開している地域

プロジェクト概要
当基金は2002年4月に発行した「コスモ・カード・ハウス「エコ」と、2006年6月に発行した「コスモ・カード・オーパス「エコ」」の会員(以下「エコカード会員」)の皆さまからの年間500円の寄付金と、コスモ石油グループの寄付金をもとに、「地球環境貢献活動「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトを展開し、今年で9年目を迎えました。

1 バブアニューギニア/ソロモン:熱帯雨林保全

バブアニューギニア
エコカード会員×18人の支援で研修生1人が1年間、農業研修を受けました。



ソロモン
500円で5kgのお米が収穫できました。



バブアニューギニアとソロモンにおいて、過剰な焼畑農業を抑制し、安定した食糧自給や生活を営む上で必要な現金収入の確保のために、定置型有機農業の技術指導と普及に取り組んでいます。指導員を育成する研修施設を充実させることで、研修を受けた住民が地域における技術指導のリーダーとなり、熱帯雨林の保全と地元の人々の生活安定をめざします。

2009年度は両国で研修と人材育成を行いました。2010年度も、これらの活動を継続します。

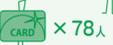


マライタ州北部 Rukoki 稲米所 (ソロモン)

国内外の環境修復と保全

8 タイ:北タイ山岳地帯 共有林地図作成

エコカード会員×78人の支援で村民1人が地図づくりの教育を受けました。



北タイ山岳地帯では、地元住民は森のなかで持続可能な豊かな暮らしを営んできました。しかし、国がすべての森林を「国有林」に指定し、地元住民が森に住めなくなりました。再び森での自然に支えられた生活を取り戻すためには、現在の「国有林」が「共有林」として国に認められることが必要です。そこで、「共有林」の申請に必要な地図づくりを地元住民とともに進めています。

2009年度は7村が参加して、コミュニティ林の地図とともに村の歴史や生物資源の情報を集めた「村の百科事典」を作成しました。2010年度は10村に拡大する予定です。



GPSを見ながら

村民たちとともにハイボンの村の歴史をまとめる

2 中国:秦嶺山脈 森林・生態系回復

500円でキンシコウの住む森に松の苗木を12本植えました。



絶滅危惧種のキンシコウやジャイアントパンダなど、希少動物の宝庫である秦嶺山脈で森の生物多様性の回復をめざしています。野生動物の移動を妨げていた林道への植林と、動植物の生態研究が主な活動です。

2009年度は14kmの道路に11,000本の松の苗木を植林しました。キンシコウの生態についての研究も継続し、関連情報についての研究も継続し、関連情報を掲載したWebサイトも公開しました。2010年度も9,500本の植林と研究・講演活動を継続します。



松の苗木

学生が参加しての植林

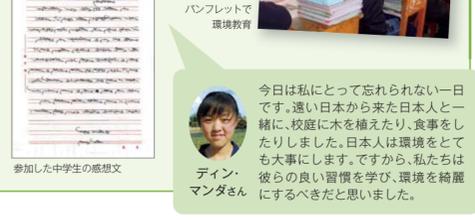
7 中国:内モンゴル緑化

500円で小中学生2人が環境教育を受けました。



沙漠化が進んでいる中国の内モンゴル自治区において、経済的価値の高い沙棘(サジー)の植林に取り組んでいます。さらに現地の八仙筒中学校に沙棘植林基地を設置することで、現地の子どもたちの植林活動への参加と環境教育にも活用しています。

2009年度は環境教育と沙棘の植林、活動のパンフレットを作成。2010年度はより地域と連携した環境教育の実施と沙棘の植林、国内外での活動の継続を予定しています。



パンフレットで環境教育

参加した中学生の感想文

今日は私にとって忘れられない一日です。速い日本から来た日本人と一緒に、校庭に木を植えたり、食事したりしました。日本人は環境をとても大事にします。ですから、私たちは彼らの良い習慣を学び、環境を綺麗にするべきだと思います。

3 日本:種まき塾

500円で植林のための苗木を5本購入しました。



「ココロと大地にタネを蒔く」をスローガンに、樹木の種や実生(種から発芽したばかりの幼い木)を集めて成長させ、苗木を地元で植林する人たちに提供しています。地域に元々ある樹種を植えることで、森の植生を回復し、生物多様性の保全につなげます。また、エコカード会員の方を対象として、種まき塾で植林などを体験してもらう「富良野エコツアー」を実施しました。

2009年度は赤エゾマツやミズナラ、ハルニレなど8,057本の苗木を提供し、育苗体験には延べ207人が参加しました。2010年度は、エコツアーなどを継続しながら、1万本の供給体制をめざして活動していく予定です。



種まき体験

種樹用ポット作り

6 フィリピン:循環型農業支援

エコカード会員×4人の支援で現地女性1人にエリ蚕飼育指導ができました。



フィリピンのパラワン島では、生活のための森林伐採や焼畑農業が増え、豊かな森林が失われつつあります。そこで、環境を守りつつ経済的に自立するために、キャッサバの栽培指導とエリ蚕の飼育・糸紡ぎ・編み物・織物などの指導を行っています。キャッサバの葉はエリ蚕の餌になり、エリ蚕の排泄物はキャッサバの堆肥に、さなぎは家畜の飼料に、繭は絹織物になるという循環型システムです。また、持続的な発展のために、技術を他の人に教えられるトレーナーを育成しています。

2009年度は、現地で技術指導を2回行いました。プログラムに参加する女性たちが立ち上げた団体が「政府公認のNGO」として認められ、糸や織物などの製品も品質が向上するなど、自立へ着実に進んでいます。2010年度は、さらなる品質向上と新しい作業場の建設に取り組みします。



現地トレーナーの指導技術も向上

4 キリバス/ツバル:南太平洋諸国支援

500円でマンダローブを2本植えました。



ツバル
エコカード会員×19人の支援で1人の生徒が廃棄物について学びました。



南太平洋にあるキリバスとツバルは海抜が低く、海水面の上昇や波による土地の侵食が住宅の浸水や飲料水の不足など、さまざまな問題を起こっています。さらにツバルでは、輸入品によるごみの処理も問題になっています。そこで、海岸の浸食を防ぐためのマンダローブ植林と、子どもたちへのごみ問題の啓発活動を行っています。キリバスでは、植えた種子は波にさらわれるものもありますが、半年後でも8割以上残り、数年前に植えたものは人の背を超えるくらいにまで育ちました。

2009年度は両国あわせて約1万5千本のマンダローブの種子を植え、ツバルではごみ分別ワークショップも行いました。2010年度もこれらの活動を継続します。



植林は種子を3本ずつ砂に差し込むだけ(キリバス)

ごみを知るぬりえ教材(ツバル)

5 中国:シルクロード緑化

500円でシルクロードに沙棘(サジー)の苗木を28本植えました。



シルクロードの地、中国の黄土高原では急速に沙漠化が進んでいます。そこで、経済的な価値があり現地の気候に合う沙棘(サジー)を、地元の農民や学生たちと植林しています。2009年度は、75,600本の植林ができました。2010年度も、これまで植えた苗木の成長を確認するとともに植林活動をすすめていきます。



沙棘の実を食べられるので加工食品にするのも考えています

植林作業